

# あさかぜ

高知学芸高校同窓会 関東支部

機関誌 18号

2005・09

〒100東京都千代田区永田町  
2-1-2米蔵院第2議員会館  
513号室 細川休夫 気付  
TEL 03(3508)7513  
FAX 03(3593)7148

## 高知の女をなめたらいかん

五期 久常 節子 (旧姓 山崎)

皆さん！こんにちは。久常と申します。よろしくお願ひします。有光さんより突然、講師として予定していた人が、急にダメになったので引き受けてくれないかという話がありまして、普通ならば「私みたいな人間が...」というのでしようが、「いいよ。」と引き受けてしまいました。

というのがある。あそこを出たら就職は100%やし、海外へも留学できるみたいだ。」と教えてくれました。公文さんところは五人女の子がいて、その内二人が衛生看護科を卒業して、そのお父さんが言うのですから間違いないと思って、衛生看護科へ行きました。



今日は「軽薄こそが人生だ」というようなテーマで話した方がピッタリだと思いましたが、まあ「高知の女をなめたらいかん」というのは一度でいいから言ってみたかったことなんですけれども、一度も言えないで同窓会を利用してすみません。

私は、先程ご紹介いただきましたように約四十年前に学芸を卒業しました。宮地先生が初めて担任になったクラスです。

学芸を卒業した時に、どこか大学へ行かないかん訳ですけれど、父から言われましたのは、家から通えて公立じゃないといかんという事でした。そうなりますと二つしかない。今日そこへ見えてます公文さんのお父さんが「節ちゃん！行くなら高知女子大に衛生看護学科

が問題なのですが、研究機関にいましたので、カッコよく逃げる方法として留学しました。カリフォルニア大学のサンフランシスコ校という所に、ポストドクトルコースというのがありまして、そこへ一年間行く事にしました。そこへ行ったら、研究室は与えられるは、秘書はつくはでルンルンの一年間でした。

卒業して、次また少し勉強して、国立公衆衛生院という厚生省の研究機関に十五年勤めました。十四、五年勤めますと仕事はおもしろくなりましてたけれど、人間関係面で色々なことがありまして居づらくなりました。もう仕事場へ行くのも嫌になりました。たが、丁度大学へ入ったばかりの子供を一人かかえていまして、仕事をやめる訳にもいかん。どうしようかなど、そこで私、顔もいいのですが、頭もいいのですぐ考えたのが逃げたらいかんという事でした。その逃げ方が問題なのですが、研究機関にいましたので、

丁度後三ヶ月で帰るといふ時厚生省から電話がかかってきました。厚生省へ来ませんか。厚生省に役人の世界に退屈と余りいいイメージがなくすぐことわる所ですが、このまま帰っても、イヤで逃げた職場、それよりはと厚生省に行くことにしました。

「保健指導室長」という仕事で、二年後には新しい大学に就職する予定でしたので二年間だけという条件で引き受けました。

役人がどういふものか何も知らないで入ったのですが、やってみて驚いたのは、結構おもしろいなあとということでした。何がおもしろいかと言うと、今まで一生懸命、保健婦活動がいかに大事か研究結果を出しても増えないのですが、行政で枠組みや法律を作ると物事が変わっていく、結構おもしろいなと。

けれど二年が経過しましたので、そろそろ辞めさせていたいただきたいと局長の部屋へ行きましたが、辞めさせてもらえませんが、普通だったら、私の人生ですから、さっさと辞めるところですが、役人という

のもおもしろいなあと思い始めていましたので「看護課長」という仕事を引き受けました。その仕事は、私がそれまでの二年間でやってきた仕事とはまるっきり違いました。保健指導室長は保健婦の統括をするというような仕事で、保健婦による予防活動を推進してゆけば、国民にとって医療費が少なくすむという事で皆が応援してくれました。国民にとってどうかという発想でやっていくことが出来る世界です。

ところが、看護課長になつて思ったことは、非常に重要なことを決めていく中で動かしている力は政治力というものでした。私が初めて体験した世界でした。

私はいつも言うのですが、看護課長になって三つのショックを受けました。

一つは、日本の看護教育環境の貧しさ、多くの看護婦を養成する養成所の条件の貧しさには驚きました。

そしてもう一つは、日本の看護というのには足りない足らなさと比べてドンドン増やしてきましたので余ってくるとい

うこと。

そして今一つは、看護界に入つて来る若い人たちの質が下がってきているということ。人の命にかかわる職種の教育がこれでもいいのかと、ショックを受けました。

普通行政に携わる人間がこれではいかんという気持ちになつた時どうするかというと、まず法律を変えようということになると思います。ヨシ、日本の看護教育のあり方を、制度を変えていこう、あるいは、保健婦・助産婦・看護婦法という法律があるので、その法律を変えていこうと思いましたが、それで、まあ法律を変えていくと言つてもすぐ出来る訳じゃない、周りの関係する課長さんとかいろんな方に話しかけていきました。大蔵省とかにも交渉したりしますけれど、大蔵省の役人の医療の発想は、医師の教育に關しては本気で取り組みます。そこをよくしていけば、看護の問題も全体的によくなくていくという発想で看護の問題は誰も本気になつて考えてくれそうもない。正面からやつても仕様がなないと思いまし

た。

そこで「指一本で男を転がします」というテーマでホームパーティーを開きました。呼ぶ相手は看護に關係する各省の課長さんやマスコミ關係の方々。手作り料理とお酒でもてなし、お酒のまわつたところで、「ただ今から指一本で男を転がします。」と言つてサラサラとふすまを開けました。居間の隣は和室で布団がしいてあります。一瞬シンとなりました。そこで身体に自信のある方（体重に自信のある方？）に布団に寝てもらつて神谷さんという看護技術のすぐれた専門家なのですが、その彼女に、彼の体を指でクツと押さえてもらいました。そうするとクルリツと体位が変わるんです。見ていた人が「自分で体を動かしたんじゃないか。」というんです。「イヤ、動かしてない。」と。

それで彼女が希望者全員を指一本で転がし、人間の体は寝たきりになるとどうなるか、看護というものがなるとどうなるかという事を説明しました。又、「あなたの声が聞きたい」というビデオを見てもら

い、交通事故で意識障害を起こしている方が看護によつて意識を取り戻していくという内容ですが、全員が真剣にそのビデオを見てくれました。

そして次の日、まず大蔵省から電話がかかってきました。介護保険の勉強会をやるんだけれど、あのビデオを見せて欲しいと。真正面から行っても相手にしてくれなかったけれど、手段はともあれ看護の事に理解をもつていただけるようにして、改革をしていこうと。

法律を変えるには、省庁で検討会とか審議会とかを持ち、関係省庁から政権政党を通じて国会へ行くというプロセスをとります。質の向上の為、看護教育を四年教育に持つてゆき、准看護養成をやめようという検討会を持ち、提出しようと思いましたが、医師会との関係の中で、中途半端なままになつていきます。

しかし、わが国の医療提供体制はこのままだら危ないという事が言われ始めました。医療の抜本改革をやつていかないと種類保険そのものが危うくなると言われるようにな

りました。

諸外国に比べ、日本の医療提供体制の特徴というのが三つあります。「長い、少ない、多い。」入院期間が長い、患者さん当たりの看護師の数が非常に少ない、しかし患者に出す薬が多いという事です。もう少し別のやり方、効果性を追求するようなやり方をしなければいけない。いろんな事が言われ始めました。

その中で大きく決まったのが、日本の医療提供のあり方を急性期と慢性期とに分け、急性期の看護の配置を考えるべきだと。今までは、昭和二十三年に決まりました急性期も慢性期も一緒にした「四対一」という配置でした。どうということかと言うと四人の患者さんに看護婦一人という、いのように聞こえますが、二四時間通しての考え方ですので、八時間労働で考えますと患者さんは三倍いるということ、昼間だと十人に一人、夕方から夜間は二十人の患者さんになります。諸外国と比べ大変少なく、しかも准看護婦も入っております。看護の配置を決

めるにあたって、このときは医療審議会という所で決めることになりました。

看護課長が作った案の一つの基準として、四十人位からなる審議会が開催され、二・五対一の案に対し、看護協会は一・五対一にして欲しいと提案しました。

審議会の第一日目、九人位から発言があり、七人はそれ位の割合で看護婦は必要だという話になりましたが、あとの二人は猛反対されました。

そんな看護婦は雇えないと。医療を考える時、医療の提供側つまり病院とか診療所といった所と、医療費を支払う側の保険者側、さらに医療を受ける側の国民、この三角の関係の中で色々物事を考える訳です。その中で医療費を支払う側の保険者の考え方は非常に重要ですので、審議会の合間を縫って、ぜひこの二・五対一の案に賛成して欲しいと頼みました。看護婦の配置を多くすると人件費は上がりませんが、看護の手が多いと、回復は早まり合併症も防げ、医療事故の問題も少なくなるだろうと、データを持って説明

して回りました。そうしている内に多くの方が理解をしてくれましたが、中間報告がでる頃、疲れ果てて仕事をやめました。一ヶ月程バリでポーツと海を眺めて帰ってみると、いつの間にか二・五対一が三対一になつて、厚生労働部会に出されました。

しかし、ここでは三対一ですら通りませんでした。この時の政務調査会会長、亀井静香さんが非常に応援して下さい。なぜ看護というのはこんなに政策決定に関して弱いんやろうと、私自身の課題になりました。

看護の就業者は一二〇万人、医師の就業者は二十五万人、総数では五倍近くの方がいます。にもかかわらず、看護の政策というのは通らず医師会の政策は通つてきた。なぜかなあと考えてみますと、医師会に有利な発言をした議員は医師会にきちんと評価されますが、看護の連盟で



は、どの議員が応援してくれ  
たのか、そういう事は知りま  
せん。ただ、自民党を応援し  
ようということをやっています。

看護界がどうしたら力を持つ  
ことができるのか。看護の質  
が上がるということは、その  
結果を直接受けるのは患者さ  
んである訳で、そういう意味  
で何とかせんといかん。

たまたま私は今、大学に勤  
めさせてもらっていますけれ  
ど、早く今の仕事をやめて、  
政策決定過程の情報が見護職  
に伝わる仕組みを日本の中で  
作っていかないかん。五十七  
万人の看護職に見護をする条  
件は、政治の中で決められて  
いること。その一人一人の議  
員がどのような発言をしてい  
るかをきちんと評価して一票  
を出していく土壌をつくらな  
いといけないと思っています。

そういう意味で、いつまで  
も高知の女をなめたらいかん  
という気持ちです。日本の医  
療が非常に歪んでいる、医療  
費の分配が歪んでいる。その  
結果、いろんな問題が起こっ  
ているという事を少しでも知  
っていたらだければと思います。

今日はどうもありがとうございます。  
（第十六回総会講演より）

久常さんは国立公衆衛生院主  
任研究官として十五年間勤め  
られ、その後、海外留学を經  
て、厚生省の看護課長に就任。  
この講演を下さった時点  
では慶應義塾大学の教授とい  
うお立場でしたが、今年六月、  
日本看護協会会長に就任され  
ました。



### 同窓会関東支部総会開催さる

平成十六年十一月二十日(土) 都市センターホテルにて

細川支部長より

同窓会も回を重ね、どうあ  
るべきか、どう活動してゆく  
べきか、幹事会でも課題の一  
つであるがなかなかいい案が  
出ない。しかし、年一回でも  
皆さんにお集まりいただいて、  
学生時代を思い出し、母校の  
先生方とも懇談をする、これ  
はこれで意義深いものである  
と思われまます。色々な場で活  
躍されている皆様方の情報交  
換などの場になれば幸いです。



細川支部長

議事の会計報告、監査報告も  
拍手で承認され、来賓の方々  
からもご挨拶をいただきました。  
森木同窓会会長からは、



森木同窓会会長

今の高知の情勢が披露され、  
村岡新校長からは、私学がか  
かえる諸問題に一つ一つ取り  
組まれ、創立五十周年に向け  
更なる充実を計り、学力保証  
進路保証をキチンとしていき  
たいと力強いお話がありまし  
た。



村岡新校長

特別授業

EPI TAPHS

谷脇浩二前校長



皆さんこんにちは。今日は私に授業をせよということをお願いしたまわりまして、しかも四十五分もの時間を取っていただいているとのこと。今さら授業を、しかも皆さん相手には、とんでもない、と、寝込んでしまう程のショックを受けております。こんなふうにして生徒達は不

登校になつていくんだな、そういう子供達の気持ちがわかる。思いがしております。ようやく勇気をふるい起こしてもう今さらどんな恥をかいてもいいやというようなことでやってまいりました。なぜこのテーマがEPI TAPHSかということについては、色々ありまして、最近

卒業生、特に古い卒業生達と会って、昔の話をする機会がありました。そういう中からこのテーマに至った次第であります。お墓に刻む墓碑銘のことを指しております。さっそくですが、この八行から成っている墓碑銘はEPI TAPHSの中でも大変有名なもので、最も有名なもの

の一つとされております。これは誰の鎮魂歌かと申しますと「ジキル博士とハイド氏」の作者でありますロバート・ルイス・ステイブンソンの墓碑銘として名高いものになっております。ステイブンソンは、四十四年の生涯でしたが、当時は十九世紀のことで、ヨーロッパ

EPI TAPHS

Under the wide and starry sky  
Dig the grave and let me lie:  
Glad did I live and gladly die,  
And I laid me down with a will.

This be the verse you grave for me:  
Here he lies where he long'd to be;  
Home is the sailor, home from sea,  
And the hunter home from the hill.

To  
My only Honey  
My Wife  
Fossie

From  
Her only Honey  
Her Husband  
Jimmy

Phoebe S. Brashear  
1834-1910

We have loved the stars too fondly  
To be fearful of the night.

John S. Brashear.  
1840-1920

...we therefore commit his (her) body to the ground;  
... in sure and certain hope of the Resurrection....

Donne's body only lies below :  
Earth would be richer than the skies.

の列強、オランダとかポルトガルとかドイツ、フランス、イギリスだとか、そういうヨーロッパの諸国がアジアの方に勢力を伸ばしていた頃でした。太平洋の諸国につきましても、どんな小さな島でも、何らかの利点があるだろうと手中に収めていく訳ですが、その中にサモアの島々がありました。

そのサモアでステイブンソンは人生の最後の五年間を過ごしています。ヨーロッパ列強のそういうやり方に義憤を感じ、陰になり日向になりこの酋長を助けたと言われているおられます。

その為、酋長の彼に対する信頼は絶大なものがありました。四十四才でステイブンソンが亡くなった時、直ちにその亡骸を深夜、道なき道をサモアの島の丘の頂まで、夜明けまでに担ぎ上げてそこに横たえたというのであります。

その地点からは南太平洋を一望におさめることが出来る所で、後にそこに立派な石碑が建ちまして、そこに刻まれたのが、ステイブンソンの鎮魂歌といえますか、この八

行から成っている EPI T A P H S です。(資料にそって)

「この広い星空のもとで。」と Dig the grave of the grave はお墓になっておりますので「墓を掘ってもらいたい」と。「そしてそこに私を横たえて欲しいんだ」と。Glad did I live

というのには、「私はうれしく生きた」とそういうふうな意味です。まあ、喜んでこの人生を過ごしてきた」と。「そして喜んで死んでいくんだ」というふうになっております。

I laid me down と今の言葉では I laid myself となると思いますが、私は私をここに横たえたのだと。そして次は「気持ちを込めて、心を込めて本心から私は自分自身をここに横たえたんだ」と。This be the verse. verse という

のは韻文の詩であります、その次にまた grave が出てきますが、今度は「お墓」ではなく「刻む」という単語として使われております。「私の為に君達がほってくれる言葉はこれだよ」というようなことだと思われまます。「ここに彼は眠っているんだ」次の Home is the sailor というのはちよっ

と語順が転倒しておりますが、「船乗りが帰った」という意味です。海から帰ってきた」と、「そしてハンターは山から帰ってきた」というふうになっております。

ここを取材した朝日新聞の記者だったとおもいますが、随分昔、四十何年前になると思いますが、その新聞に広々とした海をバックにした大きな写真を見た記憶があります。そんな事を思い出して、やはり四十何年前前のことですが昔に授業でちよつと取り上げたことがあります。

その事を大変よく覚えていてくれている卒業生がおりまして最近そういう話になりましたので、この話をさせていたどうかと思つた訳であります。

改めてもう一度見直してみますと、二行目の所は Dig the grave とありまして、Dig は強になります。強・弱・強と強になっておまして、その次の and は弱くなつていきますから弱・強・弱・強というようにビートがきいている。詩の中のビートとなつており、そういう詩の韻律、リズムにな



新旧校長先生を囲んで

つており、そういうリズムでリズムカルになつていっているというところもありません。

そして、さらに見てゆきますと、最初の行と二行目、三行目の sky lie die とアイという音が繰り返されていて、詩の技法になつていますね。リズムカルにビートと共に、ずっと人の心に伝わっていく。そういう意味では声を出して読んでいただくということがよいのかなあという気がする訳であります。

同じように、次のところの the sea もイーと続いている訳で、そういうところなど